

令和 5 年度 新潟県 / 新潟市 英語教育改善プラン

目標

外国語の背景にある文化や相手に十分配慮して、英語を通じてコミュニケーションを図り、伝え合う力を高める。

1. 現状

改善が進んだ点

- ① 外国語の授業における ICT 機器の活用
- ② 小中高連携

未だ改善が必要な点

- ① 遠隔地との交流授業の実施
- ② 「言語活動を通して指導する」ことの意味とその効果の周知
- ③ 学習者用デジタル教科書の活用

2. 分析

① GIGA スクール構想により、1 人 1 台端末とネットワーク環境を整え、授業での ICT の活用が当たり前になった。新潟市は、全国的にも早く、教育の情報化ビジョンを示し、情報活用能力の育成を推進した。

② 市内の全小、中、高等学校の担当者合同の研修会を設定した。1 小 1 中や小学校複数校からなる中学校区など、様々な場合における、よりよい連携の在り方を、事例に基づき、情報交換をした。

① ICT 活用状況における遠隔地との交流授業については全国平均を下回った。複数校に勤務する専科教員の強みを生かし、兼務する市内の学校との交流は見られる。

② 新潟市小学校教育研究協議会外国語部の公開授業において「言語活動」の重要性については伝えたが、言語活動時間の割合は伸びていない。

③ 専科教員向けのデジタル教科書の活用研修を実施したが、活用のよさを実感するまでは至らなかった。

3. 施策・事業

① ① 新潟市国際課と連携した姉妹都市との国際交流オンライン事業の推進

② 新潟市小学校教育研究協議会外国語部の研修や研究発表会での市内全体への指導の場の設定

③ 新潟市小学校教育研究協議会外国語部と連携した学習者用デジタル教科書の活用研修の実施

・一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組について

当市の課題として、求められる英語力を有する英語教員の割合が低いことが挙げられる。小学校の新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合を 2025 年度までに 30% 以上とする年次目標を設定し、教員採用選考検査では CEFR B1 と B2 相当以上の力で差別化をして加点している。今後も一定以上の英語力を有する者の割合の達成状況を把握し、その都度必要な方策を検討する。

令和 5 年度 新潟県 / 新潟市 英語教育改善プラン

目標

外国語の背景にある文化や相手に十分配慮して、英語を通じてコミュニケーションを図り、伝え合う力を高める。

※「授業における生徒の英語による言語活動時間の割合が50%以上」「英語担当教員の英語使用状況」が85%超

1. 現状

改善が進んだ点

- ①英語の授業におけるICT機器の活用状況
(R3 96.5% → R4 98.2%)
- ②CEFR A1以上の英語力を有する生徒の割合
(R3 38% → R4 38.7%)
*目標値 R3 50%, R4 55%
- ③求められる英語力を有する英語担当教員の割合
(R3 34.8% → R4 38%)
*目標値42%

未だ改善が必要な点

- ①授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合が50%以上
(R3 78.7% → R4 74.3%)
*目標値85%
- ②授業における、英語担当教師の英語使用の割合が50%以上
(R3 77.2% → R4 74.9%)
*目標値85%

2. 分析

- ①新潟市全体で進めるGIGAの推進による授業での活用頻度が増加した。
- ②①に加え、タブレットを活用し授業以外でも英語学習にアクセスできる環境が整った。
- ③一昨年度から市中教研が中心となり英語科担当教員のGoogle Classroomを開設した。いつでも交流や情報交換、好事例の共有が可能になった。研修以外での学び合いの場が広がったのが一因である。

- ①授業における英語使用が帯活動等、限定的な場面で行われている可能性がある。即興的なやりとり等の発展的な活動を積極的に取り入れる。
- ②クラスルームイングリッシュ等の定型表現での英語使用に留まっている。

3. 施策・事業

- ①授業におけるICT活用の一層の推進。研修を通じた活用事例の提示や好事例の共有。
- ②タブレットを活用した主体的な学習の推進。自主学习のアイデアの情報交換。
- ③英語科担当教員専用のGoogle Classroomを活用し、教員の交流や情報交換に加え、最新情報の提示等も行う。
- ④夏休みのサマーセミナーで英語に親しむ機会を設ける。

以下のことを英語担当教員を対象にした研修で行う。
(外国語評価対応研修・外国語マネジメント研修)

- ①即興的なやりとり等の発展的な活動を積極的に取り入れることができるよう、好事例の共有や情報交換。
- ②好事例の共有や情報交換を通して、担当教員が自己の実践に生かせるような機会の設定。

令和5年度 新潟県／新潟市 英語教育改善プラン

目標

外国語の背景にある文化や相手に十分配慮して、英語を通じてコミュニケーションを図り、伝え合う力を高める。

※「授業における生徒の英語による言語活動時間の割合が50%以上」「英語担当教員の英語使用状況」100%を維持する

1. 現状

改善が進んだ点

- ①授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合が50%以上
(R3 97.5% →R4 100%)
- ②授業における、英語担当教師の英語使用の割合が50%以上
(R3 82.3% →R4 100%)

未だ改善が必要な点

- ①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備を目標値に近づける
 - ・公表… R4 66.7% (目標80%)
 - ・達成状況の把握… R4 66.7% (目標100%)

2. 分析

①高等学校においては、オールイングリッシュで授業を行うことが浸透している。また、英語理数科における発展的な授業の実践が挙げられる。また、夏休みにイングリッシュセミナーを行い、集中的に英語使用の場を設けている。

②①を実践するために、自主的に研修を重ねたり、情報交換をしたりするなど、学び合いがある。

①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備はR3より改善されているが、目標値には届いていない。活用の意義を示したり、教科内で共通理解を図ったりできるようにする必要がある。

3. 施策・事業

①引き続き、オールイングリッシュでの授業とイングリッシュセミナーを行い、生徒に合わせた英語力の伸長を図る。

②新潟市総合教育センターと連携し、研修や講演会で先進的な知見を得られるような機会を設定したり、市内の全小・中・高等学校の担当者合同研修会で情報交換の場を設けたりしている。

①外国語担当者合同研修会等で、「CAN-DOリスト」活用の意義を示したり、教科内で共通理解を図ったりできるような機会を積極的に設ける。